



三島学園百周年記念棟ホワイエ

三島学園報

VOL.5
2005.12

- 巻頭言「学都仙台に在って」
- ますみ幼稚園創立50周年
～ますみが変わる・変わる幼稚園をめざして～
- 短期大学部 子ども生活専攻 幼稚園教諭免許申請
- 村田朋泰氏講演会「村田朋泰 その仕事」



学校法人 三島学園

学都仙台に在って

学校法人 三島学園 理事長
池上 雄作

仙台市教育委員会が主催する「高等教育ネットワーク・仙台」の公開講座で今年は“学都”が主題として取り上げられ、10月15日に本学園の千葉景一、近江恵美子の両先生が「女子教育に果たしてきた三島学園の役割」の共通課題のもと、第二次大戦前に焦点を合わせて講演され、聴衆を魅了した。平成12年に仙台圏大学間で締結された単位互換制度では「学都仙台単位互換ネットワーク」を謳い、その後仙台市では組織間の連携を取り込んだ「せんだい学都連携プラン～新しい学都仙台の創造をめざして～」を提示し、その企画をもとに、仙台学長会議では最近具体的活動への検討に入っている。

こんな動きの中で、よく‘学都仙台再構築へ向かって’の言葉に接するが、そこには、高度経済成長の時期を境に学都のイメージが大きく変貌したことを踏まえた、未来を創造する学都仙台への期待感が強く込められている。

学都と聞くとすぐ第二次大戦後間もない復興の時代を思い出す。日本のハイデルベルグとも言われ、角帽に学生服姿の学生の活気が街に満ちていた。学生が‘若きウェルテルの悩み’とか‘アルトハイデルベルグ’の演劇に興じ、音楽会や公演によく出かけて文化の香りを満喫した。多くの先輩や先生に、また先輩の輝かしい業績に接して学術文化の香りの中で生活したのだった。それだけ学都の雰囲気が漂っていたが、当時は町

の人口に対する学校関係者の割合が仙台市では特に高かった。昔に遡って見ると、明治44年当時、高等教育機関が皆無のところどころが27県もあった時期に、仙台には官立の第二高等学校、仙台医学専門学校、仙台高等工業学校があり、それに東北帝国大学が加わって、人口が10万人に満たない仙台市に4校が揃うことになり、更に私立の東北学院をはじめとする中等教育機関が名を連ねて、学都の礎が着々と築きあげられてきたという背景がある。明治33年に東北法律学校として、つづいて3年後に東北女子職業学校として誕生した三島学園はその歴史とともに成長し、学都にあって特に女子教育の面で特筆できる功績を挙げてきたことは、学園主催の行事や多くの同窓会員の活躍が如実に物語っている。

20世紀後半の経済成長、都市人口の増加、生活環境の革新的な変貌が仙台市の街の姿を大きく変えた。しかし、学都としてのポテンシャルは全く衰えておらず、寧ろ高まってきている。

学都であるからには、‘学’を大切にすること、学生・生徒が仙台市で学ぶことに誇りを持つ環境を作ること、そして教育研究機関と市民との親近感を高めることが肝腎である。学問、教育、研究、文化への憧憬心を絶やすことなく、本学園が百余年に亘って培ってきた伝統を生かして、学都仙台の一翼を担っていくよう努めたいと思う。

公開講座

みやぎ県民大学「大学開放講座」

「環境と健康～21世紀の健康学～」

9月10日(土)、11日(日)、17日(土)、18日(日)

主催／宮城県教育委員会、東北生活文化大学
東北生活文化大学短期大学部

講師／9/10(土) 土井豊(大学・教授)、工藤陽子(同・講師)
9/11(日) 佐々木裕子(大学・講師)、西野徳三(同・教授)
9/17(土) 片山正文(大学・教授)、大庭清(同・教授)
9/18(日) 寺崎洋子(大学・講師)、伊藤洋子(同・講師)

今年度のみやぎ県民大学「大学開放講座」は、「環境と健康～21世紀の健康学～」と題して、家政学科8名の講師陣により4回の連続講座が学内において行われた。合間には、骨密度や貧血の測定、油の試飲、食品写真カードによる献立の検討などがあり、真剣な中にも和やかに楽しい雰囲気の講座となった。最終日は調理実習とその試食で締め括られ、全講座受講者には一太郎な「21世紀の健康学」を学んでもらうことができた。今後も地域の皆様に喜ばれる開放講座を企画運営していきたい。



「高等教育ネットワーク・仙台」公開講座

「女子教育に果たしてきた 三島学園の役割」

10月15日(土)

主催／仙台市教育委員会、東北生活文化大学
東北生活文化大学短期大学部

講師／近江恵美子(大学・助教授)、千葉景一(同・講師)

本年度の「講座仙台学2005—学都。その過去・現在・未来—」にて、大学、短期大学部からは10月15日(土)、「女子教育に果たしてきた三島学園の役割」と題した講座を提供した。その主な内容は、1つに我が学園創立にまつわる草創期の逸話「三島学園草創之譜～三島氏と氏をめぐる人々～」(千葉担当)であり、もう1つは現在も大学、短期大学部に保存されている資料などに基づく講演「学生の制服の変遷～女子学生の袴論争をめぐって～」(近江担当)であった。今回の講座は、学園の社会的貢献の足跡を彷彿させるものとして貴重であった。



ますみ幼稚園創立50周年 ～ますみが変わる・変わる幼稚園をめざして～

昭和30年春、現在の場所に2クラス32名で開園したますみ幼稚園は、今年創立50周年を迎えた。

現在、50周年の記念誌作成の編集委員会を立ち上げ、原稿整理や写真選択に追われている。ファイルに保管している薄茶色の白黒写真には、開園当時の園児や先生方の保育活動の様子が残っており、木造校舎や遊具をみると50年の歴史を感じることができる。職員室保管の園日誌や倉庫にある古い記録資料にも、先輩の努力と汗の結晶が潜んでいるようである。昨年から敷地内に保育園を併設したので園舎は様変わりしたが、園庭や駐車場付近の自然環境は、50年経過しても変わりがなく、茂々崎大年寺山麓のテレビ塔下は樹木に包まれ緑一色である。その中で、園児

たちは、季節の草花やかわいい昆虫を相手に歓声を上げて元気に遊んでいる。50年の節目の時期に巡り会わせた教職員としては、先輩が残してくれた伝統を引き継ぎながらも、日進月歩が激しい今日の教育環境や社会の実態を踏まえ、新しい幼児教育への期待に応えることが課題である。今後、保育内容の検討や園行事の見直しをはじめ、設備の充実や備品の整理に努め、保護者との連携を図りながら新しい特色を備えた魅力あるますみ幼稚園をつくってきたい。



昭和41年当時の七夕おゆうぎ会

短期大学部 子ども生活専攻 幼稚園教諭免許申請

今年度より保育士養成施設として認可発足した子ども生活専攻も、早や半年が経過した。先輩がいないなか、学生達は手さぐりの状態であるが教員スタッフとともに力を合わせ保育士をめざして勉学に励み、キャンパス内に新しいエネルギーを感じさせてくれている。児童福祉・保育原理・発達心理学等、保育の本質や目的、保育の対象の理解に関する講義に加え、保育に不可欠な音楽(ピアノ)や造形などの実技実習を通して、2年次に行う保育実習に向けての修練に励んでいる。8月のオープンキャンパスにおいては室内装飾として一役買い、音楽ではピアノの発表会を開くなど、入学以来の成果はめざましい。更に今年の大学祭には子ども生活専攻の企画として地域の子どもたちと共に楽

しめる「ファンタジーランド」を計画し、また本学園の「ますみ保育園」や「ますみ幼稚園」への見学実習や行事へボランティアとして参加するなど、保育士への道に向かって積極的な姿勢がみられ、大いに期待している。

近年幼児教育の重要性が唱えられ、社会的には地域においてすべての児童の健全な育成を図るという観点と、保育園と幼稚園の連携の強化を図る方向での施策をすすめるべきという考えから、幼保一元化が進められている。そこで子ども生活専攻の学生達は保育士の資格に加え、幼稚園教諭二種免許の取得の必要性があると考え、18年度からの認可に向けてカリキュラムの充実を図って再編を行い、文部科学省へ書類申請をしたところである。

(短期大学部・生活文化学科長 須藤 佑子)

家政学科特別セミナー

7月9日(土)、日本消費者協会の広重美希先生をお迎えし、多発する消費者問題を未然に防止するため、「消費者力アップのために～自立した消費者を目指して～」のテーマで行われた。今回は、最近の事例と対処法について、さらに、平成16年度に消費者の資質向上を促し、生活能力を高め、バランスのとれた消費者を育成する目的で作られた消費生活能力検定試験の紹介と試験対策を行った。家政学科では、家政学を学び生活のスペシャリストを目指す学生の消費者力を高めるため、昨年度より新設された検定試験を第1回目より導入している。今年度も引き続き、本学で第2回消費生活能力検定試験を11月12日に実施し、約35名が試験に臨んだ。



大学生協オープン

10月3日(月)みやぎインターカレッジコープ(大学生協)の東北生活文化大学店がオープンした。当日はインカレの田村専務、森理事長、大学の池上学長の挨拶につづきテープカットが行われた。店舗内には日用雑貨、雑誌、食品などが所狭しと並べられ、連日、多くの学生、生徒、教職員たちで賑わいを見せている。



大学・生活美術学科創設40周年記念講演会

アニメ作家 **村田朋泰氏**

「村田朋泰 その仕事」



1965年「生活の中に美を」の理念に基づき、当時の三島学園女子大学に新しい学科が創設され40周年を迎える事となった。その間、校名も東北生活文化大学と変わり男女共学となったがその理念は変わらず、用と美の融合への追求は時代の変遷を伴いながらも、大学のカリキュラムにも学生達の中にも浸透している。

今回の記念講演を企画するにあたって、現在の生活美術学科にふさわしい内容をという事で検討した結果、時代を反映したメディア表現の分野で活躍中の人形アニメ作家村田朋泰氏を招聘する事となった。村田氏は東京芸大美術学部デザイン科を卒業後、同大学院に進まれ、学部の時から手がけていた人形アニメを制作し、高い評価を得た。とりわけNHKのトップランナーでの紹介や人気ミュージシャンMr.Childrenのプロモーションビデオを手がけた事で、若者を始め広い年齢層に支持されるようになった。

講演会は、7月19日(火)本学園百周年記念ホールにて、学生、教職員、そして一般の方々も含めて400名を超す聴衆を集めて行われた。内容は、演題の通り自分自身の作品を上映しながら解説し、会場からの質問に答えるかたちで、

自らの映像世界を明らかにするものであった。

またこれに先立ち、氏の活動と現在の生活美術学科の在り方を広く一般に紹介する為に、せんだいメディアテークの協力を得、共同開催として撮影セットや人形の展示など、諸企画が同所で開催された。特に、7月18日(月)のトークショーでは、立ち見も出る程の盛況ぶりであった。

学科創設40周年の節目の年に、次代を担う若い作家をお招きし、学園の内外に新しい芸術表現の可能性を示すことができ、大変有意義な催しとなった。



◎平成18年度 入試日程

【東北生活文化大学】

種別	出願期間	試験日
推薦入試	平成17年11月1日(火) ～11月14日(月)	平成17年11月19日(土)
一般入試 A日程	平成18年1月11日(水) ～1月26日(木)	平成18年2月3日(金)
一般入試 B日程	平成18年2月13日(月) ～2月28日(火)	平成18年3月4日(土)

◎資料請求・問い合わせ先:入試課(TEL.022-272-7521)

【東北生活文化大学短期大学部】

種別	出願期間	試験日
AO入試	平成17年10月20日(木) ～10月31日(月)	平成17年11月5日(土)
推薦入試	平成17年11月1日(火) ～11月14日(月)	平成17年11月19日(土)
一般入試 A日程	平成18年1月11日(水) ～1月26日(木)	平成18年2月4日(土)
一般入試 B日程	平成18年2月13日(月) ～2月28日(火)	平成18年3月4日(土)

◎資料請求・問い合わせ先:入試課(TEL.022-272-7521)

【社会人入試:大学・短大】

種別	出願期間	試験日
特別選抜	平成18年1月27日(金) ～2月16日(木)	平成18年2月25日(土)

◎資料請求・問い合わせ先:入試課(TEL.022-272-7521)

【私費外国人留学生入試:大学・短大】

種別	学科	出願期間	試験日
特別選抜	大学:家政学科家政学専攻 生活美術学科	平成18年1月27日(金) ～2月9日(木)	平成18年 2月25日(土)
	短大:生活文化学科生活学専攻		

◎資料請求・問い合わせ先:入試課(TEL.022-272-7521)

【編入学試験】

学科	出願期間	試験日
大学:家政学科家政学専攻 生活美術学科	平成17年11月1日(火) ～11月14日(月)	平成17年11月24日(木)

◎資料請求・問い合わせ先:教務課(TEL.022-272-7513)

【東北生活文化大学高等学校】

種別	出願期間	試験日
特待生(学力・美術・スポーツ)推薦入試	平成18年1月5日(木) ～1月13日(金)	平成18年1月17日(火)
一般推薦入試		
美術推薦入試		
自己推薦入試(美術コース希望者を含む)	平成18年1月5日(木) ～1月18日(水)	平成18年2月1日(水)
一般入試 専願入試		

◎資料請求・問い合わせ先:入試広報室(TEL.022-272-7522)

【ますみ幼稚園】

願書配布	願書受付
平成17年9月1日(木)～10月31日(月)	平成17年11月1日(火)

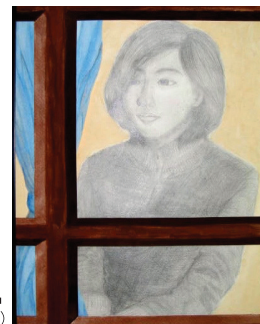
◎資料請求・問い合わせ先:ますみ幼稚園(TEL.022-225-5020)

【ますみ保育園】

◎資料請求・問い合わせ先:ますみ保育園(TEL.022-227-7080)

第6回中学生美術コンクール

学園創立100周年を記念して始められた高等学校主催による中学生美術コンクールも今回で6回目を迎えた。今年では作品のレベル向上を目的に各学校出品数を15作品程度に限定したところ、作品のレベルも数段向上し、出品校44校、総出品数277点の作品が寄せられた。仙台第一中学校3年生の尾崎果林さんの作品「窓際の少女」が見事最優秀賞を受賞した。学校賞には沖野中学校・向陽台中学校・玉川中学校・富谷第二中学校の4校が選ばれた。沖野中学校は5年連続の学校賞受賞で、学校特賞も受賞した。



尾崎果林さんの作品
(仙台第一中学校3年)

伊藤洋子講師 厚生労働大臣賞 受賞

大学・家政学科の伊藤講師が、2005年9月徳島大学で開催された全国栄養改善学会で、栄養改善事業功労者として、栄えある厚生労働大臣賞を受賞した。近年の急速な少子高齢社会の到来、疾病構造の変化に対応し、国では保健・医療・福祉・介護の見直しを行っている。このような状況の中、伊藤講師は疾病の予防活動が重要視され、日頃の食生活が基礎となることから、生涯を通じた健康づくりの推進に取り組んできた。氏は「糖尿病が急増している昨今、今後その発症予防と重症化を防ぎ、健康寿命延伸の寄与に努めたい」との抱負を述べている。



高校男女共学化3年目で部活動がよりバージョンアップ!!

男女共学化から3年目を迎え、全学年で男女がそろった高校は、学習面だけでなく、部活動において様々な好影響が出てきた。現在宮城県随一の実力を誇る女子ソフトボール部に負けじと、男子生徒が男子ソフトボール部を結成し、本格的に試合に参戦しはじめた。サッカー同好会も部へと昇格し、すでに公式戦で勝利を味わっている。既存の部でも男子の活動が盛んとなってきた。キャンパス内に男女の明るい声が響きわたり、活気あふれる高校生生活が展開している。



学生・生徒の活躍

大学

- 第42回 仙台市総合体育大会 少林寺拳法演武大会
【大学・一般女子初段の部/第3位】
星悠子・阿部あゆみ(生活美術学科2年)
- 第36回少林寺拳法 東北学生新人大会
【女子単独演武の部/優秀賞】
星悠子(生活美術学科2年)
【女子単独演武の部/敢闘賞】
阿部あゆみ(生活美術学科2年)

高校

- 女子ソフトボール部
【第19回宮城県ソフトボール総合選手権大会・高校の部 優勝】
【第32回仙台市高等学校ソフトボール大会 優勝】
【第53回宮城県高等学校新人ソフトボール大会 優勝】
【第60回国民体育大会(岡山国体)】
宮城県少年女子チームに本校部員8名参加
- バレーボール部
【第10回宮城県私立高等学校バレーボール選手権大会 第2位】
- ソフトテニス部
【第35回宮城県私立高等学校ソフトテニス大会 男子団体 第3位】
- 写真部
【宮城県高校文化連盟写真専門部主催 第4回夏期写真コンテスト】
最優秀賞 氏家愛(美術コース3年)
【第1回昭和シェル石油環境フォトコンテスト 小中高生部門】
北山孝雄審査員賞 若生ゆか(生活文化コース3年)

- せんだいアートアニュアル2005
【佳作】
本田卓子(生活美術学科3年)

- 美術部
【全国染織連合会主催 第9回きものデザインコンクール全国大会】
京都府知事賞 今野祐美(美術コース2年)
【第23回泉・黒川地区高等学校美術展】
泉・黒川地区高等学校美術部会長賞 高橋綾佳(美術コース2年)
宮城県高等学校美育研究会会長賞 早坂有可(美術コース3年)
藤井花恵(美術コース3年)
【長岡造形大学・高校生新聞社主催 全国高校生セーフティデザインコンテスト】
グランプリ 西山まどか(美術コース1年)
【第5回全国高等学校ファッションデザイン選手権大会】
決勝大会出場 大友亮枝・阿部瞳・外崎昌海(美術コース1年)
【中央ブロック8警察署・各地区防犯協会連合会等主催 万引き防止ポスター】
最優秀賞 地島鈴佳(美術コース1年)、西山まどか(美術コース1年)
【第31回東北現代工芸美術展】
奨励賞 齋藤由香(美術コース3年)
【第23回日本新工芸東北会展】
NHK仙台放送局賞 鈴木琢也(美術コース3年)

大学祭

大学・短大合同による 秋穫祭「DELUSION—妄走—」が10月22日(土)、23日(日)に開催された。あいにくの雨天ではあったが、多くの来校者を迎え、活気溢れるものとなった。はな(モデル)のトークショーやケロポンズのあそびネタセミナーなど外部ゲストによる企画、学部学科をこえた企画であるファッションショーやライブペインティング、ゼミやクラブ・サークルによる展示販売やパフォーマンス企画など学生有志による様々な企画が行われた。



生文祭

高等学校では、「生文祭'05飛び出せ飛び込め熱くなれ!」のテーマのもと、9月2日(金) 前日祭、3日(土) 校内発表、4日(日) 一般公開の流れで、全校生参加の第3回生文祭を行った。文化部、各クラスによる展示発表、ステージ発表、バンド合戦など日頃の練習の成果を発表し、またチャリティーバザー、模擬店など大変な賑わいであった。当日には「PTAの部屋」や「町内会の部屋」も設けられ、生文祭を大いに盛りあげていただいた。



創設者の墓参～江刺市米里・人首へ

去る7月28日(木)、恒例となっている本学園創設者三島駒治・よしご夫妻の墓所への墓参が行われ、理事長はじめ、高校長、同窓会長ほか本年度の新任教職員を含む24名が参加した。三島両先生は北山の輪王寺に埋葬されているが、昭和25年に駒治先生の郷里である岩手県江刺市米里字人首(ひとかべ)にある自徳寺に分骨され、村葬が挙行されている。自徳寺では地元出身で本学園の同窓生である菊池さん、及川さん他の出迎えをうけ、学園の100余年の歴史に思いを馳せつつ法要を営んだ後、同窓生はじめ地元の方々のご尽力で手入れの行き届いた墓所にお参りし、お花と線香をお供えた。近くには佐藤^{ななし}元理事長のご実家の墓所もあり併せてお参りした。自徳寺から、今も残る佐藤先生の生家の前を経て、三島両先生の「頌徳碑」が建てられている人首館山城址公園に移動して周囲の絶景を楽しみ、記念撮影した後、えさし藤原の郷で昼食休憩した。今年はさらに、水沢市在住の同窓生棚山さんのご子息の案内で、水沢の齋藤實記念館を見学した。齋藤實子爵はよし先生と再従妹の間柄にあり、学園の前身である東北職業学校設立及び運営にも深く関与されており、記念館には学園に関係する資料も多数見られ、学園とのゆかりの深さが偲ばれた。



同窓生情報

アパレルメーカーでデザイナーとして活躍中!!

女子中高生に人気のブランドの一つ「コッレル」でグラフィックデザイナーとして働いている南條雅美さんは、平成13年に高等学校を卒業し、東京にあるデザイン系専門学校で3年間技量を磨いて、現在に至っている。南條さんは高校在学時は美術部に在籍し、1日1作という方針を自らに課し、意欲あふれる熱心な創作活動で充実した高校生活を過ごした。また、自ら企画立案して個展を開いたり、本校生としては最初の「河北美術展」入選を果たし、念願の専門職について毎日充実した生活を送っている。



学園歴史探訪

東北女子職業学校初代校長～努力の人・三島よし先生～

よし先生は明治5年(1872)、岩手県水沢に生まれた。幼年より太宰良造や留守家の伊予子刀自につき国語、漢文、和歌、裁縫手芸などを修め、歌人を志して上京した。明治29年(1896)三島駒治氏と結婚、東京裁縫女学校・同高等科(現渡辺学園)に学び、検定で小学校の教員免許を取得、次いで東京簿記学校、和洋裁縫女学校(現和洋女子学園)を卒業、東京市赤城尋常高等小学校准訓導となった。さらに検定で師範学校女子部、高等女学校裁縫科教員免許を取得、明治36年(1903)長野県上田高等女学校教諭となるが、同年駒治先生が開校した東北女子職業学校の校長として女子教育に専心すると共に、幼稚園児を集め運動会や学芸会を開いたりお年寄りを招待して敬老会を開催するなど、地域との結びつきも大切にされた。昭和13年(1928)長年の功績が認められ勲六等瑞宝章を授与された。



東北生活文化大学

家政学科

健康栄養学専攻3年生では、6月から小学校、保育所、保健所などの臨地実習が始まった。7月末には同2年生を対象とした、家政特別講義・工場研修が行われ、仙台中央卸売市場などを見学した。オープンキャンパスは7月～8月に2回行われた。計114名の高校生が参加した。9月上旬には博物館実習旅行が関東方面で行われ、家政学科から11名が参加した。また、中旬には家政特別講義・研修旅行が行われた。家政学専攻の30名が札幌、旭川、美瑛など北海道の各地で研修を行った。更に、みやぎ県民大学開放講座が、家政学科の教員を中心として行われた。テーマは「環境と健康～21世紀の健康学～」で講義や実習を行った。10月1日には家政学科に新たに鈴木裕行先生をお迎えした。

生活美術学科

今年は学科創設40周年を迎え、更に、新しい時代を積み重ねていく節目の年となった。それを記念して人形アニメ作家として目下売り出し中の村田朋康氏を招聘し様々な企画を催した。8月から9月にかけては美術鑑賞及び博物館実習旅行が実施された。また、8月1日から8日迄今年で3回目となる「高校生のためのデッサンセミナー」(高大連携行事)が、本学科主催のもと多くの高校生を集めて行われた。第32回大美学内コンクールでは150余点の中で3年生の鈴木里佳さんの作品(漆芸)が最優秀賞の栄誉に輝いた。大学祭(テーマ「妄走」)ではテレビの司会などで活躍中のはなさんのトークショーをはじめ、全国をまわって小さなお子さんやお母さん方に人気のケロボンズによる遊びねたなど多彩な企画が行われた。

一方、教員在学生と子ども研究発表に余念はないが、特筆すべきことは杉林講師が美術学科ではじめて文科省の科研費が認められたこと、3年生の有志が10月から11月にかけて市内のギャラリーなどで「ギャラリージャック」と称して30余名の作品発表を企画した事であった。こういった前向きな表現に対する姿勢が生活美術学科の行く末を示すものである。

東北生活文化大学短期大学部

今年度より二専攻制をスタートさせた短大では、学生が求めるニーズに積極的に応えるべく更なる改革を進めている。その一つに資格・免許対策が挙げられるが、子ども生活専攻では現在取得可能な保育士資格に加え、来年度より幼稚園教諭二種免許も合わせて取得できるよう目下申請中である。17年度前半を振り返ってみる。各学年に男女学生が揃った初めての体育祭は、各種目で大学と白熱した試合を演じ、クラスや学科の団結を実感した行事となった。7月19日には教育実習報告会が行なわれ、3週間におわたる中学校での経験や生徒との交流の様子について、実習を終えた学生が報告を行った。夏季休業期間に大学と共催で行なわれたオープンキャンパスでは、コンピュータから伝承遊びまでいろいろな体験ができるプログラムを企画したところ、参加者数は昨年を大きく上回り、2日間とも大盛況であった。また、同時期に東京で行われた第40回全国私立短大体育大会には女子がバレーボール競技に出場し、若さ溢れるプレーを見せてくれた。秋の恒例行事である大学祭では、子ども生活専攻の学生たちが歌や劇、踊りによる出し物で初日のオープニングを飾った。その他、大学祭に訪れた親子向けの参加ブースも合わせて企画・運営するなど、短大生が実行委員長を務めた今回の大学祭を盛り上げた。一方、デザインコースを中心とした学生も染色やCGイラストといった授業で取り組んだ作品を展示するコーナーを設け、御来場の人々の目を楽しませた。短大では各専攻やコースの特色を活かしながら、学生の多様な学習ニーズにも柔軟、且つきめ細やかに対応できるよう、今後も検討を重ねつつ努力を続けていくつもりである。

人事異動

- 大須賀 奈緒 ……【退職】保育園・嘱託保育士/平成17年6月30日
- 加藤 忠男 ……【退職】幼稚園・園長/平成17年10月31日
- 坊野 涼子 ……【採用】保育園・嘱託保育士/平成17年7月1日
- 一條 愛美 ……【採用】保育園・嘱託保育士/平成17年9月20日
- 鈴木 裕行 ……【採用】大学・助教/平成17年10月1日
- 大野 滋子 ……【異動】幼稚園・園長/平成17年11月1日
(高校教諭兼務)

東北生活文化大学高等学校

校名変更と男女共学制を導入して3年目を迎えた。共学制が理解され、3年前から生徒数が増加の傾向にある。今年度の在籍者数は834名(内、男子256名、女子578名)と僅かではあるが5年前(在籍数827名)を上回った。これも県内私立高校初の「美術コースの設置」に続いて全国でも珍しい「保育コースの新設」、商業科に「情報ビジネス」「経営デザイン」と2つのコースを設置したこと、そして「入試科目の選択制導入」や「コンピュータ室の増設」、「スクールバスの増便」などがプラス要因になっていると理解している。更には校務分掌の改編と入試広報室の設置、本学園の大学・短大との連携を図り高大の一貫教育をめざすなど、ここ数年、教育改革が断行された結果だと思う。今日、入試広報室を中心に教職員の創意工夫と数々の企画立案のもと意欲的な教育活動を展開、本校の「特色」と「よさ」をアピールし、一層中学校や地域の方々の理解が得られるように努めている。

次に平成17年度前半の高等学校の主な行事と活動状況について振り返ってみる。球技大会、体育祭は全学年男子が揃い、今までにない男女の積極的な参加と運営で、活気溢れる祭典となり大会は例年になく大いに盛り上がりを見せた。部活動面でも男女の活躍が目覚ましい。女子ソフトボール部は各種大会で優勝し、10月に行われた宮城県新人大会では2年連続優勝、昨年度に引き続き全国大会出場を決めた。女子バレーボール部は6度目の全国私立高校バレーボール大会出場を決定。男子ソフトテニス部は東北私学大会に初出場。新たに男子ソフトボール部が誕生し県大会に出場した。サッカーが同好会から部に昇格し、今後の活躍が期待されている。文化部は、特に美術デッサン部が2年連続全国ファッションデザイン選手権大会決勝大会へ進出、また、新潟中越大地震復興支援全国高校生セーフティデザインコンテストではグランプリを獲得。美術コースの生徒が中心となり県内外での各種展覧会などで多数入選し、活躍は目ざましいものがある。更にはダンス部の男女による新体操、アクロバットなどを取り入れた見事なダンスに各種ボランティアやイベントへの出演依頼が殺到している。その他にも写真部、茶道部、JRC、ギター部、演劇部などがボランティア、展覧会、発表会などで対外的に活躍している。また、地域との交流も盛んになった。特に虹の丘町内会とは、新年会や年2回行われる全在校生による町内や地域の大掃除、敬老会、夏祭り、秋の文化祭、児童センターに通う親子の交流など、生文大高生のボランティア活動や生文祭への町内有志による写真や芸術作品の展示参加などを通して、地域から愛され信頼される学校に発展しつつある。このように生徒の活躍は県内にとどまらず全国規模に展開し、「東北生活文化大学高等学校」の名が全国に発揚し校内は活気に溢れ更なる発展が期待されている。

ますみ幼稚園

秋空の下、園児たちはボール遊びやブランコ、滑り台で楽しく遊んでいる。9月のサッカー教室では、ベガルタ仙台の元選手によるボール遊びが実に楽しく、お母さん方にも好評で今後も是非続けて欲しいとのことである。10月の運動会も今年は新しい種目内容が多く園児たちもたいへん喜んで参加し、特にバレーやボンボンによる演技が親の目を引き、障害物競走も新趣向で好評だった。11月にはクリスマスをテーマにした発表会を行った。若い先生方による新しい感覚の演技は、園児や保護者に喜んでもらえた。



ますみ保育園

保育園では子供たちが元気に登園している。10月には秋の運動会が行われた。運動会は天気が一番だが、無常にもパラパラと雨が降り出してしまった。開会式と遊戯は外でできたが、その後場所を移しホールで行った。短大の学生さんのお手伝いもあり、大いに盛り上がる事ができた。冬に向けて、芋煮会、さつま芋掘り、クリスマス発表会、もちつき会と行事が計画されている。それぞれの行事を通して、収穫の喜び、物の大切さや友だちとの関わり方、仲良くすることの大切さ、小さい子供への優しさなどが育つような保育を進めていきたい。

理事会の 主たる 議題

- 平成17年10月29日(土) 10:00
(百周年記念棟2階会議室)
- 学則変更について
- 就業規則の一部変更について
- 学内規定について
- ますみ保育園園舎増築工事の発注先選定について



「おいもほり」

すみれ組 山内 怜夏

秋の芋掘り遠足の楽しい思い出を描いた作品である。「おおきなおいもちゃんがほれるかな?それともかわいいおいもちゃんかな?」子どもの期待あふれる心が表れた作品に仕上がっている。

編集後記

つい先日「三島学園報」第4号を発行しホッとしたのも束の間、足早に時が経ち、第5号の編集後記を書いている。「光陰矢の如し」「歲月人を待たず」「時は金なり」、まさしく。身に染みる…。

(三島学園広報委員会)

学校法人 三島学園 学園報 第5号 平成17年12月1日発行 三島学園広報委員会編集

III 学校法人 三島学園 〒981-8585 仙台市泉区虹の丘1-18 TEL.022-272-7511(代) FAX.022-272-7516
[URL] <http://www.mishima.ac.jp> [E-mail] hojin@mishima.ac.jp